



みずみどり

2020年 1月15日 第136号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : mizumidori@nifty.com

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124

里山の生き物 大幅減

こんな記事が1月13日の東京新聞に出ていました。

日本自然保護協会が事務局を務める、全国の里山市民調査「重要生態系監視地域モニタリング推進事業（里地調査）（環境省事業）」で、2005～2017年度の全国の約200か所の調査地から得られたデータを解析した結果、日本の里山において、チョウやホタルなど身近な生物種の多くが減少傾向にあることが示された。

チョウでは、調査した87種のうち絶滅危惧種に指定されているのは2種だけだが、34種が絶滅危惧種並の減少率だったとあり、キタテハ、イチモンジセセリ、ゴマダラチョウなどがあげられていました。

ニュースを読んで私は「やっぱりそうか」と思いました。報告書にあるとおり、バッタ広場でもゴマダラチョウ（左下）やイチモンジセセリ（右下）が減っています。城址周辺の畑や森が減ったことや、きれいに整備された緑地が増えたことも原因かもしれません。



里山の生き物 大幅減

オオムラサキ



ノウサギ



オナガ



日本各地の里山にいるチョウやゲンジボタル、ヘイケボタルなどの数が2008~17年に大幅に減ったとの調査報告書を日本自然保護協会が12日、発表した。欧米では昆虫の急減が注目を集めており、日本も同様の傾向にあることが示された形。特にチョウ類は調査対象の約4割が、国が絶滅危惧種と判断する基準を上回る減少率だった。

ハシブトガラスやヒヨドリ、ノウサギやヤマアカガエルなど、里山で広く見られた生物が減っていることも確認された。逆にアライグマなどの外来種やイノシシ、ニホンシカは数や分布域を増やしていた。

同協会の藤田卓氏は「一人の手が加わらずに管理放棄されたことや、開発による分断で里山の環境が変わったことが主な原因だろう」と指摘、環境を守る取り組みの強化を求めた。

チョウで減少が目立ったのは、ミヤマカラスアゲハ（一年間の減少率31・4%）やオオムラサキ（同16・1%）、ギフチョウ（同8・8%）など。イチモンジセセリやキタテハなど、どこにでもいるとされていたチョウも減っていた。種によっては欧米で指摘されているネオニコチノイドなどの農薬の影響も疑われるという。

調査した八十七種のチョウのうち三十四種が絶滅危惧種の基準を満たす減少率だったが、実際の指定はギフチョウなど二種にとどまる。鳥類はオナガなど十二種が絶滅危惧種に該当したが、指定されているのはサシバのみ。テンとノウサギも基準を満たした。

調査は環境省が〇三年から全国約千カ所を選び、市民参加で継続的に行う生物調査の一環。

①2003年、北海道栗山町の飼育施設「ファール森」で
 ②小林健人氏撮影

私たちは、バッタ広場やとんぼ池の観察から、ここにすむ生き物達のことをいくらか見知っています。

私も会の活動に関わる前は、モンシロチョウらしいとか、アゲハチョウらしい、程度の認識でしたが、釣巻さんに何度も教えていただき、バッタ広場やとんぼ池を見守り続けて、少しばかり生き物達と知り合いになると、かれらの存在があつてこそ地球がなりたっていること、生き物達は大切な地球の仲間だとわかるようになりました。

今の時代はみんな忙しい。忙しくて道ばたの自然に目をとめる余裕もなくなり、「自然は大切だ」と思っても実感がもてなくなります。

だから「生き物 大幅減」と聞いても「しかたがないよね」、と思う方も多いかもかもしれません。でも深刻な問題です。

地球の長い、長い進化の歴史の中で、アンモナイトとか恐竜とか絶滅して化石で見つかる生物もいます。でも今の絶滅のスピードは、これまで経験したことのないもので、最近耳にする「今だけ、金だけ、自分だけ」の経済活動の行きつくところの大量絶滅時代です。気候変動（猛暑の夏、台風の被害も顕著に）、森林の減少、プラスチックの海洋汚染問題などなど。私たちがニュースで見聞きし、うすうす感じている地球の大問題です。

エコポリスセンターの「環境なんでも見本市」の今年のテーマはSDGs（持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals）です。美しい地球を、子や孫、ひ孫の世代に引き継いでいくための目標がSDGs、国連が掲げた目標です。

SDGsのNo15は、「陸の豊かさを守ろう」です。

エコポリスセンターでは、環境教育として「自然とふれあう」プログラムに取り組んでいます。それは第一段階の入門編、SDGsの「陸の豊かさを守る」ためには、自然観察からさらに保全活動に取り組むなど次のステップが期待されます。

保全するためにどんなことができるでしょうか。保全の主体はやはり行政—環境政策課（自然環境保全係、環境教育係、エコポリスセンター）、みどりと公園課ですが、私たちが行政任せではなく、意見を言うだけでなく、ささやかでも何が出来るかを考え、取り組みたいですね。

個人でも出来ることを考えてみましょう。

2018年度の環境なんでも見本市（2019年2月）で、いたばし水と緑の会は「自然と友だちになるためにできること」を取り上げました。

- ①自然を壊さないためにゴミは捨てないでね。
- ②公園の生き物（虫や野草などの動植物）は持ち帰らないでそっと観察しようね。自然な場所でみんな一生懸命生きているよ。
- ③飼っている生き物は最後まで世話をして、公園などに捨てないでね。いらなくなった園芸植物も同じ。バッタ広場ではアイビーが繁茂して困っています。
- ④「ゴミを捨てない」から次のステップは、「みんなでゴミを拾う」。
- ⑤草地は生き物が暮す場所です。野草はできるだけ刈らないでね。庭やベランダにも野草を。「雑草」、「害虫」ではなく、「野草」、「虫」と言いましょう。うっかり触れるとかぶれるチャドグガもいますが、ほとんどの虫は「ただの虫」。
- ⑥区役所は雑草駆除の苦情が多いと言います。公園の草もできるだけ残すように区役所お願いしましょう。学校や公園の一角だけでも自然のままにできないでしょうか。
- ⑦自然を守る活動に参加しよう。いたばし水と緑の会の活動にご理解とご参加を！
いたばし水と緑の会では、都立赤塚公園城趾地区（郷土資料館のうらの城址草地）に生き物がすめるバッタ広場、美術館横に「赤塚とんぼ池」をつくり手入れをしています。また、日暮台公園（前野町5丁目）の樹林地の再生等に取り組んでいます。

カルガモ・カラス・ アオダイショウ・ハクビシン



赤塚ため池にはいつもカルガモがいます（写真左）。子ども達や釣のおじさんから餌をもらって、「食うに困らない生活」です。春になると池の中の島で産卵します。卵からかえったヒナが10羽くらい親の後から泳いでいるのは、とてもかわいらしい光景です。池の中の島はノラネコに襲われる心配がない安全な場所です。以前はカラスに襲われてヒナの数がどんどん減ってしまいハラハラしたことがありましたが、ここ数年はそのようなこともなく、生まれたヒナは残らず成長したように見えました。ただカルガモ達は、とんぼ池に来てオタマジャクシをあさるので、水と緑の会は戦々恐々。対策に知恵を絞っています。



池の中の島はそれほど大きくないので、産卵するのは一つがいで、残りは池から追い出されます。ヒナが孵ると、次々

に別のつがい産卵します。

昨年（2019年）春に、この島にアオダイショウが泳いでやって来て、この島で長々と交尾していました（写真矢印先が頭）。カルガモは巣を放棄して逃げ出し、それっきり戻ってきません

でした。この年、ため池でのカルガモの産卵はゼロ。釣をしている人に聞いたら、一昨年は8つがいが産卵し、全部大きくなったそうです。カルガモは増える一方なので、1年くらいカルガモは卵を産まなくてもいいのではないかと思う、と話していました。

さて今年はため池でカルガモが繁殖するでしょうか。カルガモはどこにでもいるし、今年もオタマジャクシを食べにとんぼ池に来るでしょうね。

アオダイショウはハクビシンを避けてため池の中の島に産卵しに来た、と言った人もいましたが、どうでしょうか。大きなアオダイショウはときどきいろいろなところで見かけます。水路で1m以上もあるヘビの抜け殻を見たことがあります。じっとしていますが、迫力があります。松の木に絡んだ写真がよくわからないので、他の写真も紹介しますね。



左：2016年6月 湧水水路
にいたアオダイショウ



右：2019年7月 赤塚8丁目
にいたアオダイショウ

ため池公園・ 城址をうろつくハクビシン

ハクビシンは夜行性なので自宅から離れた赤塚では見たことがありません。近くの方は「いるよ」、と言います。

ハクビシンは、ジャコウネコ科の動物で、どこから来たか不明ですが江戸時代からいたらしい。タヌキに似ていますが鼻の頭が白く、私は自宅近くで、電線上を歩いているのを見たり、親子連れに遭遇したり（次ページ）、数回目撃しました。果物が好物ですが（猪鼻さん宅のブドウも食い荒らされ）雑食性なので野鳥の卵やとんぼ池のオタマジャクシも食べるかもしれません。農作物（果物）被害や屋根裏などに住みつくなどの被害があり、板橋区では捕獲事業を行っています。生態系に及ぼす影響もあるでしょうね。



2015年5月 西台田端公園にいたハクビシン。母子4匹で道路を横切るところに出会い、カメラを向けると、子どもがいたためか、逃げずに2歩ばかり前進、威嚇されてちょっと恐かった。



写真上：ハクビシンの糞？
2019年9月とんぼ池のフェンスの上

写真右上は、赤塚とんぼ池のフェンスの上にあった糞です。果実の種が混じった固いウンコです。こんな落ち着かない場所に糞をする動物はハクビシンではないかと思えます（想像です）。公園をうろうろしているハクビシンの捕獲はむずかしそう。ハクビシンは子どもを産んで増えていくのでしょうか。

城址にいる大きな動物たちの力関係は？

城址には、私たちが知らないだけでヘビなど大きな動物もひっそり住んでいます。最近見かけなくなりましたが、白いおばあさんのノラネコがいました。城址の樹林地には黒いノラネコもいます。タヌキもすんでいるのでは。ハクビシンもここの住民になっているのでしょうか。大きな動物達の力関係も気になります。

赤塚城址の生物多様性保全整備事業

東京都では、赤塚公園における多種多様な生物が安定して生育生息できる環境整備事業を実施しています。城址地区では12月から美術館の裏山と北西部（郷土資料館より奥）の樹林地で、中高木の間引き伐採とササ刈りが始まりました。

間引き伐採により林内に日照が届き明るい樹林を目指します、とあります。

安定していた森に手が入ってどんな変化が生じるか、見守っていきたいと思います。

バッタ広場の日当たりが悪くササばかりだった奥（西側）も樹林地が伐採されると、植生が変わるかもしれません。湧水水路も林縁の木が切られて明るくなります。変化を見守っていくことになります。

以前は野鳥の写真を撮りに望遠カメラをぶら下げた人をよく見かけましたが、最近はめっきり減っています。伐採により野鳥たちが増えるといいのですが。

日暮台公園（前野町5丁目）の 「もしかして里山の復活??」

公園の木は、ソメイヨシノ、クスノキ、ヒマラヤスギ、アジサイ、ツツジなど植えた木が主ですが、日暮台公園は、数十年前までは燃料に利用してきた自然樹林地の「元里山」です。大木の伐採後に生じた植物の変化を観察しながら「もしかしてこれって里山の復活?」と期待を寄せています。

樹林地斜面下の区による秋の草刈りは実施されなかったもので、2019年12月、とりあえず公園の南端の竹のように大きくなったササをみんなで切り、林縁に芽生えた木の子どもを残してササを少しずつ刈ることにしました。

斜面林の北端は、もともと木が伐採された明るい区域でしたが、7月4日、地面を覆ったクズの刈り取りのため、実生（木の子ども）も一緒に高さ30cm程で一面伐採されてしまいました。とりあえず実生木の周囲のササやクズを手で除去、その後少しずつササを刈り、クズの根元の発芽点を切り取るなど手入れをすると、ジャノヒゲ、ノイバラ、クサイチゴ、グミ、スイカズラ、タラノキ、タチツボスミレなどが顔を出しました。1月に実生の身長測定をしました。切られてそのまま枯れた木もありましたが、下から枝を伸ばした木（多くはムラサキシキブ）もあり、イヌシデが90cmの高さに育っていてうれしくなりました。

こういう自然の区域で実生木や野草を残して山裾だけ刈り払い機で下草を刈るのはむずかしいようです。

ならば、ボランティアで少しずつ木の子ども（実生）を残し育てながら、見守っていただけたらと思っています。春の野草も楽しみです。仲間を募っています（坂本郁子）。

3月初め（梅まつりのころ）に カエルたちがとんぼ池に産卵に来ます

暦の啓蟄（けいちつ）は、今年は3月5日ですね。啓蟄とは「冬ごもりの虫が這い出る」という意味です。冬眠していたカエルたちは産卵のためこの池にやってきます。以前は20匹近くいましたが、10匹くらい来るかもしれません。雌をめぐって争う「カワズ合戦」は静かな池がちょっとした騒ぎになります。クックッと小さく鳴き、水音が聞こえ、季節になるときちんとやってくるカエルたちに感動します。

この池は、自然がつくった安定した池ではなく、自然を模した池なのでいろいろ不具合なところが多く、とくに池をつくったときに粘土やベントナイトという止水剤を多く使用したため、土がブヨブヨの沼状態。作業性の改善と、生き物達の環境をよくするために、雨の少ない冬の時期に、水を抜いて手直ししています。見に来た方は水がないととてものがっかりされ、叱られることもあります。どうぞご理解くださいようお願いします。なお、3月の梅まつりには水と緑の会は出展しないので、フェンスの外からカエルさんたちを応援してください。

活動のお知らせ

運営委員会：1月25日（土）12：30～13：30

2月22日（土）12：30～13：30

作業・観察の後に報告や活動内容などを相談します（ラーメンしらかば）。

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

3月21日（土）の予定

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田（3969-7124）まで

1 赤塚ビオトープ（赤塚トンボ池、バッタ広場）の手入れ（集合は赤塚トンボ池前）

1月25日（土）10：00～11：30 とんぼ池

2月22日（土）10：00～11：30 バッタ広場の手入れ（草刈り）

雨天の場合は中止または延期 連絡先：事務局または坂本（090-4618-1295）

2 赤塚城址自然観察会（+できるかたは草刈り等ボランティア）

どなたでも参加できます。子どもさんも一緒にどうぞ。生きものは観察したら自然に返してね。

小雨でも実施。連絡先：事務局または坂本（090-4618-1295）

2月16日（日）10：00～11：30

集合場所：板橋美術館そばの赤塚トンボ池前 参加費：無料（保険には加入していません）

もってくるもの：あれば双眼鏡、虫眼鏡、図鑑

3 日暮台公園樹林地の観察

2月2日（日）10：00～11：30 3月1日（日）10：00～11：30

日暮台公園前集合

連絡先：事務局または坂本（090-4618-1295）

4 環境なんでも見本市に出展します

2月8日（土）12：00～16：30

2月9日（日）10：00～16：00

会場：板橋区エコポリスセンター

●ビオトープボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、ビオトープ（赤塚トンボ池と赤塚公園バッタ広場）などの観察と手入れ作業、日暮台公園自然樹林地の定点調査などを行っています。作業や観察会で身近な自然を発見するのが楽しいです。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」（隔月発行）お送りします（年会費2000円：振込先は表紙に記載）。